■編集、発行／石狩市企画経済部秘書広報課　〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2 Tel.0133・72・3145 Fax.0133・74・5581
【HP】http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/　【携帯電話用HP】http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/mobile/　【Eメール】hisyokoho@city.ishikari.hokkaido.jp
■制作／株式会社キューブコーポレーション
■印刷、製本／株式会社アイワード
この広報紙は再生紙を使用しています。また、印刷インキは、大豆を利用した植物油インキを使用しています。

広告

◎石狩随想 91

石狩往復文書中「人民」から

市民図書館に「明治四辛未 石狩往復 壹 庶務掛」と記載の、開拓使公文書の分厚いコピーつづりがある。開拓使と石狩出張所との往復書簡を通じ、当時の石狩役所の出来事を知りえる貴重な史料だ。つづりの最初は余市での行き倒れ人の年齢、人相、風体、所持品などを記載したもので、さらに11月25日付鈴木少主典の名をもって小樽、札幌、石狩、厚田の会所宛てに心当たりの者は申し出よと触れ書きがあり、「人民へ御触示可有之候也（人々へ広くお知らせします）」と記されている　▼歴史大河ドラマなどで、幕末の武士が欧米の新訳語を使用していると、それだけで明治の息吹を感じるものだが、この書中に「人民」の太筆書き文字を見つけた時も同様の新鮮味を持った。福沢諭吉を始め明治の文豪たちは「人民」を好んで使っている。新しい文化、価値観に対応する翻訳単語がうまれ、日本語の語彙は大増産時代を迎えていた　▼グローバルな現代、外来語は日常的に片仮名で表記され日本語化している。特にIT社会の到来のなか「日本語」は漂い始め出している。言葉は時代を反映し変化するものだと思ってはいるが、過ぎた柔軟性は文化を変え、本質を見失うことにもつながりはしないだろうか。

（市長）

まちの情報はインターネットテレビでもぜひチェックしてください！　ERIS えりすいしかりネットテレビ　http://www.i-eris.tv/